



新たな取り組みにチャレンジしています

フードバレーとがち



未来創生プロジェクト
 音更町畑作農家(佐藤農場)
佐藤健司
 芽室町畜産農家(株)オークリーフ牧場
柏葉真伸
 芽室町生産・流通(株)アグリシステム
伊藤英拓
 芽室町畑作農家(坂東農場)
坂東俊徳

100年後の子孫に残せる農業

～大地・季候・動植物・人のすべてを活かした共生農業を目指します!!～

■環境負荷の少ない持続可能な農業を目指します!

畑作と畜産の連携を進め、自分たちの持ちうる資源を最大限に生かした自立型・持続可能な農業の形成を目指します。

■土壌コンサルティングの仕組みを構築します!

土壌学や科学的な分析を付加し、個人の土壌状態に合わせた堆肥を供給するなど、土の持つ生産性を最大限に引き上げた、畑作・畜産・流通の連携による「土壌コンサルティング」を目指します。

■新しい価値観や豊かさの形を伝えます!

大学での講義、畑でのフィールドワークなどを通じて、新しい価値観や豊かさの形を十勝の子どもたちに伝えます。

いまの課題は?

- 畑作農家と畜産農家との連携、生産者と消費者との連携が弱く、それぞれが孤立しています。
- 生産者と企業が信頼関係を築き、農業や食に対する価値観をぶつけあい、共生できるビジネスサークルを作る必要があると考えています。
- 農業や化学肥料等、有限資源への高依存状態を解消したいと考えています。

私たち4名を中心とした「未来創生プロジェクト」は、30歳前後の様々な職種の若者達が十勝の未来を創造しようと集まったプロジェクトチーム。農業チームでは、「自然と生命の有機循環」をテーマに活動しています。



チャレンジ実現に向けた研究内容は?

アメリカやヨーロッパのモノカルチャー社会とは対極にあるキューバ社会に触れることで、新しい十勝の可能性を見つけることができると思い、訪問してきました。

キューバの人たちはお金やモノだけでは計れない豊かさや幸せの形を知っていると感じました。それは自己の課題を自ら乗り越えようという教育のたまものだと気がきました。



害虫が寄りつかないようにその害虫が嫌いな臭いを出す植物から液体を生成して散布したり、カビの繁殖を抑えるために代替となるバクテリアを使うなど、身のまわりにあるものを利用する農業が展開されていました。



200年前の建物を修理して再建したり、30年前の車を直しながら使ったり。モノがない中で、今ある身の周りのモノをうまく使って生活しています。



サトウキビの絞りかすを、豚のエサや寝床として利用し、豚の堆肥を畑に還元するシステムを構築していました。



お互いを理解し尊重することで、平和な世界が生まれることをキューバの人たちは分かっていると感じました。

フードバレーとがち推進協議会の支援(十勝人チャレンジ支援事業)を活用して、以下のテーマで調査研究を行いました。

【テーマ】 未来につながる新しい「豊かさ」のカタチを創造
 ～人と資源の有機的循環モデルの構築による十勝農業におけるイノベーション～

十勝人チャレンジ支援事業とは?

新たな取り組みにチャレンジする人を支える事業。単なる視察旅行ではなく、自身の経営課題を再認識し、その課題解決のために何が必要か調査研究を行い、実践していくものです。